

令和8(2026)年度

南和広域医療企業団南奈良看護専門学校

【一般】入学試験問題

国 語

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開けてはいけません。
- 2 試験問題は、問題1から問題19までです。試験時間は50分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄に正しくマークしてください。
- 4 解答は、①～⑤の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは、解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気付いた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しを禁止します。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(問題は次のページから始まる)

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部に示す漢字の読み方が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) ① 消費の伸びが顕著(けんしよ)に見られる。
② 類似(るいに)の事件が多発する。
③ 果物の甘味を凝縮(ぎようしゆく)する。
④ 建物は崩壊(とうかい)寸前の状態だ。
⑤ 大雨で河川が氾濫(はんかん)する。

- (2) ① お祝いムードが醸成(のうせい)される。
② 美しい音色に陶醉(かんすい)する。
③ 膨大(ほうだい)な資料を読み込む。
④ 彼は見事に汚名(おみよう)を返上した。
⑤ 地盤の隆起(りゆうき)が確認される。

問題2 傍線部の漢字の用法が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) ① 故郷にいるような錯覚(さくかく)を起こす。
② 会議には多くの有識者が一同(いどう)に会した。
③ デジタル化に後れをとって片身(ぺんしん)が狭い。
④ 発表会を前に先生はチームに喝(かく)を入れた。
⑤ 試合開始早々のミスで、チームの気盛(きせい)が削がれてしまった。

(2) ① その件は容易に解決するだろうと鷹を括っていた。

② 兄弟で輪郭がそっくりだ。

③ 過去の過ちを最大漏らさず告白した。

④ 彼の発言は極めて遺憾である。

⑤ 彼は遅刻したことを皆に射罪した。

問題3 次の傍線部と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) カサをさして雨をしのぐ。

① 両親のサン同を得て進学する。

② 決サン報告をまとめる。

③ 戦前は養サン業が盛んだった。

④ 大企業グループのサン下に入る。

⑤ 手痛い反撃を受けて退サンする。

(2) 会議が紛キュウして長引く。

① 柔道には複数の階キュウがある。

② 真相のキュウ明に全力を尽くす。

③ 政府の無策をキュウ弾する。

④ キュウ第点を得て無事卒業する。

⑤ 防災計画の策定がキュウ務だ。

問題 4 次の言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) 台風一過

- ① 結果のよしあしにかかわらず行動や運命を共にすること。
- ② 見かけは立派であるが、実質が伴わないこと。
- ③ 大騒動がおさまって、一気に静けさを取り戻すこと。
- ④ 草木をなぎかせるように、ある時代におおいに流行すること。
- ⑤ 周囲を圧するような威厳に満ちあふれ、立派でおかしがたいこと。

(2) 発破はつぱを掛ける

- ① 激しいことばなどをかけて発奮させること。
- ② 危険なことや破局が、すぐにでも起こりそうな気配があること。
- ③ 周囲や世間から、激しい非難や攻撃を受けること。
- ④ つらく苦しいことを経験すること。
- ⑤ 止めることができないほど、激しい勢いのこと。

(3) 対岸の火事

- ① 遠くから眺めるだけで、手に取ることのできないこと。
- ② 物事を自分の利益とするようにひきつけること。
- ③ 将来の進む道を決断するべき、重要な場面に直面すること。
- ④ 自分には全く関係のない出来事で、痛くもかゆくもない物事のこと。
- ⑤ 自分には利益にならないのに、わざわざ危険を冒すこと。

問題5 次の意味を表す言葉として最も適当なものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) 何のわだかまりもなく、清らかで澄みきった心境のこと。

- ① 心頭滅却
- ② 明鏡止水
- ③ 一心不乱
- ④ 起死回生
- ⑤ 公明正大

(2) すばしっこくて抜け目がなく、油断もすきもないこと。

- ① 柔よく剛を制す
- ② 二階から目薬
- ③ 死命を制する
- ④ 生き馬の目を抜く
- ⑤ 油を売る

問題6 次のうち、「回顧」と同じ意味を持つ語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 追憶
- ② 思慕
- ③ 雇用
- ④ 追従
- ⑤ 記憶

問題7 次のうち、「模倣」と反対の意味を持つ語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 閉塞
- ② 独立
- ③ 創造
- ④ 自由
- ⑤ 製作

問題8 次のうち傍線部の言葉の用法が正しいものを一つ選択せよ。

- ① 腸がよじれる思いで子どもと別れた。
- ② 活気にあふれていた街はもはや見る影もない。
- ③ 映画の主演として彼女に白羽の矢が当たった。
- ④ 理不尽な扱いを受けた彼は恨み骨髓に達した。
- ⑤ 新しく着任した大臣の発言が物議を醸し出す。

問題9 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

明治三十二年生まれのこの小説家は、横光利一らと「文芸時代」を創刊し、新感覚派の代表作家として活躍した。以後、日本の美意識を追求し続け、昭和四十三年にノーベル文学賞を受賞した。「千羽鶴」「山の音」「みづうみ」など多数の作品がある。

- ① 有島武郎
- ② 三島由紀夫
- ③ 太宰治
- ④ 夏目漱石
- ⑤ 川端康成

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある日、浜町の明治座の屋上から上野公園を眺めていたとき妙な事実気がついた。それは上野の科学博物館とその裏側にある帝国学士院とが意外に遠く離れて見えるということである。この二つの建築物の前を月に一度くらいは通るので、近くで見たときのこの二つの建物の距離というものについてはかなり正確な概念をもっている、少なくともそのつもりでいたのであるが、今度はじめて約三キロメートル半の遠方から眺めてみると、この先入概念がすっかり裏切られてしまって、もう一度改めて科学博物館対帝国学士院の空間的關係というものを考え直さなければならないことになってしまった。

① どうしてこういう空間的認識の差違が起こるかと考えてみたがよく分からない。色々な原因があるであろうが、その一つとしてはあるいは次のようなことがありはしないか。(イ)、接近して仰向いて見る時には横幅に対して高さの方を大きく見積り過ぎるような傾向があつて、そのために二つの高い建物の間隔がつまりて見えるのではないかとことである。これに反して遠方から見るとはもはやふり仰いで見る心持はなくなつて、眼とほぼ同水平面にある視角の小さな物体を見ることになるので、それで上下と左右の比率が正しく認識されるのではないかとことである。この解釈は間違っているかもしれないが、しかしいくらかこれを支持するような事実が他にも若干ある。

② 太陽や月の仰角を目測する場合に大抵高く見過ぎる。その結果として日出後または日没前の一、二時間には太陽が特別に早く動くような気がする。

山の傾斜面でもその傾斜角を大きく見過ぎるのが通例である。

これらと少し種類はちがうが、紙上に水平に一直線を描いて、その真中から上に垂直に同長の直線を立てると、その垂直線の方が長く見える。顔の長い人が鳥打帽(注1)を冠ると余計に顔が長く見えるという説があるが、これもなんだか関係がありそうである。

芸術写真の一つの技巧として、風景などの横幅を縮め、従つて、扁平な家を盛高く、低い森を高く見せてそれで一種の感じを出すのがある。あれなども、(ウ)ユークリッド的には真実を曲げた嘘の写真であるが、心理的にはかえつて真実に近くなるという場合もあるかもしれない。

(エ) 画家のいわゆるデッサンが正しいとか正しくないとかというものも、やはりこういう意味で心理的に真実な描写をするという意味らしく思われる。これを極端までもつて行くとカリカチュア(注2)が一番正確な肖像画になる勘定である。

③ これに関連して思い合わされることは、人の容貌の肖似(しょうじ)ということについての人々の考えの異同である。例えば、甲某の眼にはA某とB某とが、よく似ているように見える。

ところが、乙某に言わせると、ちつとも似ていないじゃないかと言う。これは甲と乙とで着眼点がちがうためだと言えどもそれまでである。すなわち甲にとってはAとBとの二人の顔の中で、例えば眼だけが注意の焦点となるのに、乙には眼はそんなに問題にならないで口許くちもとが特に大切な特徴となつて印象される、という場合がそれである。しかしまたこういうこともあり得る。すなわち甲はAの眼を少し大きく見過ぎている代りにBの眼を少し小さく見過ぎていて、そのために （オ） 実際はかなりちがった大きさと形をしたA Bの眼が似ているように思われるということも可能である。

それからまたこんな場合もある。甲がAという異性の容貌に好悪いずれかの意味で特別な興味をもっているとする。しかし乙はAの顔になんらの興味をもっていないとする。そういう場合に、甲がBやCやDがAに似ていると言っても、乙が見るとちつとも似たところが見付からないであらう。

① その場合には、甲の頭の中にはちゃんとAの鑄型のようなものが出来ているので、BCDの中に、ちよつとでもAに似たところがあると、その点をつかまえて、Aの鑄型にあてがって、そうして他の部分をその型に鑄直してしまふらしい。

これとはまた全く別の事であるが、われわれが科学の研究に従事している際にある一つの現象と他の一つの現象との間に著しい形式的ないし本質的類似があると感じ、そうしてその類似を解説し、主張してみても、他の観点に立っている学者から見ると、一向にそんな類似関係が認められないという場合が往々ある。

② とにかく、見る眼の相違で同じものの長短遠近がいろいろになったり、二本の棒切れの （カ） どちらが定規でどちらが杓子くわしだか分からなくなったりするためにこの世の中に喧嘩けんかが絶えない。しかし、またそのおかげで （キ） ばかりでなく、（ク） 批評家といつたような世にも不思議な職業が成り立つわけであらう。（寺田寅彦「観点と距離」。旧字旧仮名は新字新仮名に改めた。）

（注1） 鳥打帽 — ハンチング帽。（注2） カリカチュア — 文学や絵画で、事物の否定的な面を強調したり、滑稽化して描いたもの。

問題10 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中の①～⑤のうちから一つ選択せよ。

それがために甲にとってはほとんど自明的と思われることが、乙にとっては全く問題にもならない寝言のように思われることもあるようである。

- ① ② ③ ④ ⑤

問題 11 傍線部(ア)「上野の科学博物館とその裏側にある帝国学士院とが意外に遠く離れて見える」とあるが、その理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 科学博物館と帝国学士院の間に、様々な建物が存在していることを知ったから。
- ② 明治座の屋上から見ると、実際に歩いた時よりも建物が大きく見えたから。
- ③ 遠方から見ることで、近くで仰ぎ見た景色を明確に思い出したから。
- ④ 遠い場所から見ること、科学博物館と帝国学士院の距離を正確に認識したから。
- ⑤ 上下左右の比率を正しく捉えると、建物同士の間隔が詰まって見えたから。

問題 12 空所(イ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① すなわち
- ② なぜなら
- ③ ところが
- ④ そして
- ⑤ さて

問題 13 傍線部(ウ)「ユークリッド的には真実を曲げた」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 表面的には正しくない。
- ② 感情的には正しくない。
- ③ 潜在的には正しくない。
- ④ 思想的には正しくない。
- ⑤ 客観的にみて正しくない。

問題 14 傍線部(エ)「画家のいわゆるデッサンが正しいとか正しくないとか」とあるが、筆者はどのようなことを述べようとしているのか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 写真のように形を正確に描いているか否か。
- ② 芸術的に正しい技法で描いているか否か。
- ③ 実際の感覚に近づけて描いているか否か。
- ④ 実物よりも端的に描いているか否か。
- ⑤ 色彩豊かに誇張気味に描いているか否か。

問題 15 傍線部(オ)「実際はかなりちがった大きさと形をしたA Bの眼が似ているように思われる」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 自分の中で決めた定型に、当てはまるか否かで判断しているから。
- ② A Bそれぞれの眼の大きさや形を、正確に捉えられていないから。
- ③ 眼以外の顔のパーツが似ており、同じように眼も似ていると判断したから。
- ④ 遠くから見ること、近くから見た時と違った印象を受けるから。
- ⑤ A Bそれぞれの眼を、互いの眼の大きさや形に近づけて認識しているから。

問題 16 傍線部(カ)「どちらが定規でどちらが杓子だか」は本文中でどのような意味で用いられているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① どちらが多数派でどちらが少数派か。
- ② どちらが有益でどちらが無益か。
- ③ どちらが常識的でどちらが非常識的か。
- ④ どちらが正しくてどちらが誤りか。
- ⑤ どちらが必要でどちらが不要か。

問題 17 空所（キ）に当てはまる文として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 科学や文学が消えゆく
- ② 科学が衰え文学が賑わう
- ③ 科学が栄え文学が寂れる
- ④ 科学と文学が敵対する
- ⑤ 科学が栄え文学が賑わう

問題 18 傍線部（ク）「批評家といったような世にも不思議な職業が成り立つ」とあるが、筆者がそう考える理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 善悪や価値は人によって異なるため、事象に対する様々な意見が求められるから。
- ② 世の中の動きが正しい方向に進むように、誘導する役割が求められるから。
- ③ 偏った意見に重きが置かれなように、公平な立場での意見が求められるから。
- ④ 批判的な意見を見聞きすることで、何事にも耐えうる力が得られるから。
- ⑤ 物事の進め方に迷ったときに、批評家のいう通りに行動すればよいから。

問題 19 本文の内容と合致するものとして最も適当なものを一つ選択せよ。

- ① 先入概念から得る空間的認識は常に正しいものである。
- ② 芸術写真が真実通りでなくても、心理的には真実になり得る。
- ③ 人の容貌の肖似の判断基準は、どの人も同じである。
- ④ 科学の本質的類似を証明した場合、全ての学者から認められる。
- ⑤ 対象を見る距離が変わっても、見る眼が同じだと印象は変わらない。

